

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	10	学校名	静岡県立静岡北特別支援学校	校長名	原田 満紀
------	----	-----	---------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
専門性	学校体制でのカリキュラム・マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の状況、学年の押さえ、学習指導要領の目標・内容、単元や題材の持ち味等から授業の根拠を語る事ができる教員 100% 授業の根拠について説明を受けたと答える保護者 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 教員達成 100% 保護者達成 90.7% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に関する学習会を行ったり、授業を考える際に参照にしたりする等、学習の根拠として学習指導要領の活用意識が高まった。 年間学習指導計画の作成や活用について、今年度の各学部での取組をベースにして継続、発展させていけると良い。
	児童生徒理解に基づく「夢中」と「笑顔」の授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 授業が楽しい、できるようになったことが増えたと答える児童生徒や保護者 80%以上 タブレットを使用した授業1回・静北版OJT研修で「技」の伝え合いを行った教員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒達成 72.5% 保護者達成 91.3% タブレット達成 95.8% OJT研修達成 94.5% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「授業が楽しい」と答えた児童生徒について、前年度の61.5%からは増えているが目標には達しないので継続していきたい。 タブレット利用の自由度は増しているが、活用の幅が限られている。事例を紹介し、活用の幅を広げたい。 学部会内にOJT研修の時間を設定したことが有効だった。
	月 45 時間以内を目指した時間外勤務の削減	<ul style="list-style-type: none"> 自分で決めた時刻に退勤できた職員 100% 会議終了時刻の遵守 100% 事務室から教員への確実な情報提供 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 職員達成 94.1% 職員達成 95.4% 職員達成 100% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個人としても計画的に業務を進める意識が高まった。 提案内容の精選、早めの提案、検討事項の明確化等の工夫や意識の向上により予定時間内で終われる会議が増えた。 事務室からの情報提供にとどまらず、要望に応じた提供の必要性を考えたい。
安全・安心	自他を尊重しあう環境の維持向上	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶と感謝の言葉がよく聞かれたという保護者・職員 100% 児童生徒の人間関係や学習上・生活上困っていることの把握に努め、早期に対応したと答える教員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者達成 89.4% 職員達成 99.3% 教員達成 96.6% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員評価に反し、保護者からはできていないという指摘もあるため「挨拶と感謝の言葉」の大切さを周知し取組を継続する。 早期対応できるよう、連絡体制を整え、意識的に行動していきたい。 積極的な生徒指導充実のための工夫と事案の認知や記録の体制を整備したい。

様式第3号

	<p>未然防止への行動力と有事への対応力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの情報共有 100% ・有事の際の自分の動きを具体的に想定できる職員 100% ・学習中のけがや病気の発生ゼロ ・予算立案・執行に係る、事務室と各学部各分掌課との協働 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員達成 97.4% ・職員達成 99.3% ・職員達成 95.2% ・職員達成 97.3% 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットや防災の情報が共有できるよう、朝の打合せやPC 掲示板で発信できた。 ・実際の児童生徒・教職員の動きを想定した防災訓練を継続実施していく。 ・毎月安全点検を実施し、安全な学習環境の整備に努めた。 ・各学部各分掌課と連携し、正確な事務処理が行えた。学校全体として予算の優先順位の考え方を確立したい。
<p>連携</p>	<p>豊かな地域資源への深い理解と、それを活かした実践、発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12年間の麻活の指導内容を理解している教員 100% ・本校の麻活の取組を知っていると答えた保護者 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員達成 89.0% ・保護者達成 89.3% 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学部内での麻活は充実していた。他学部の麻活理解に向けて研修を行っていききたい。 ・麻活について学校だより、リーフレット、ホームページ等で情報発信し、取組状況を伝えることができた。
	<p>1年後、3年後、卒業後の夢を描き、関係機関と連携して実現する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年後、3年後に向けての具体的な取組を示すことができた教員 100%、了解したと答える保護者 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員達成 100% ・保護者達成 93.2% 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、教員が取組に対する進捗状況を確認・報告したり、支援方法を提案したりして、両者の取組への意識を高めていきたい。